

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.13 (夏号)

乗鞍岳の自然を考える会

平成15年7月20日発行

本年度よりマイカー規制が実施されました

5月15日例年と同じ日に乗鞍スカイラインが開通しました。開通に伴い本年度よりマイカー規制が実施され同時に法定外目的税「環境保全税」徴収も導入されました。当会が発表した提言（平成13年1月）、自然保護協会と共に発表した提言（平成14年4月）の

①自然融雪を待っての7月開通 ②低公害のシャトルバス・路線バス以外乗り入れ禁止
とまではいきませんでした、とりあえずは様子を見ていきたいと思います。それと共に環境保全税の使われ方にも注視していきたい。

ライチョウがテリトリーを作り、抱卵を始めた頃6月8日に毎年行っているサマースキー調査を今年も行いましたが、スキーヤー・ボーダーは激減していましたが相変わらず硫安を使用している人がいました。（サマースキー調査の報告は後述）観光バスで登ってきた観光客は相変わらず街中と同じ感覚で行動しています。そんな中、今年から配置された環境パトロール員・自然観察案内人の方々は熱心に活動していました。昨年までこのような人たちがなぜ配置できなかったのか残念に思われる。登山客が増加する夏の活躍を期待したい。

ライチョウ調査

＜ライチョウ調査説明会（信州大学 中村浩志教授）及び長野・岐阜両県のNGO会議＞

5/31 9:30-14:00 場所：高山市民文化会館 参加者両県含め23名（内当会から6名参加）

長時間にわたり中村先生のライチョウの導入から最近のDNA研究まで、最後まで興味がつきない講話をお聞きした。その後に乗鞍岳保全に関する長野・岐阜両県のNGO意見交換会を実施した。今回は主に現状の状況説明と顔合わせとなったが、今後当会がリードをとり両県にまたがるNGOの結束を固めることで合意した。

＜乗鞍岳、御岳ライチョウ調査 信州大学 中村教授研究室＞

6/14-15 乗鞍岳(全山調査)、6/21-22 御岳 調査

信州大学と長野県・長野岐阜両県のNGO合同調査となり、乗鞍岳24名、御岳6名で実施した。特に乗鞍岳では天候に恵まれなかったが、努力の成果が得られた模様。また、御岳では少数精鋭で調査を実施されたが、個体数が予想以上に少ない印象があり、早急な対応が懸念される。調査内容については信大研究室によるため、公開はできない。

2003年6月8日乗鞍サマースキー・アンケート調査の結果

参加者 飯田、小野木、直井、宝田、住(之)、住(寿)、佐藤、熊崎

天候 曇り時々晴れ

乗鞍スカイラインを利用し来訪したスキー客が少なかったことと、本年度からマイカー規制が実施されたことから、サマースキーの調査のためのアンケートだけではなく、一般客も対象にアンケートを実施した。

予想通り、マイカー規制はスキー関係者に反対が多かった。

環境保全税について、十分浸透していないが、支払うことについての不満は少なかった。

回答

- 1 性別 男 31 女 26
- 2 年齢 10代3 20代1 30代8 40代6 50代20 60以上19
- 3 職業 会社員13 公務員6 自由業6 主婦15 その他(無職)17
- 4 居住地 地元3 中部9 北陸6 関西17 関東16 中国3 四国1 九州1 不明1
- 5 交通手段
公共交通機関とシャトルバス または路線バス 5
マイカーとシャトルバス 23 マイカーと自転車 1
観光バス 24 マイクロバス 4
- 6 入山の目的 (複数回答)
観光 40 具体的に 雪山など景色を見るため 16
観光ルートに組み込まれていたため 17
登山 4 自然観察・バードウォッチング 3
スキー 8 スノーボード 1
仕事 2 サイクリング 1
- 7 本年度から環境保全のためマイカーは乗入れ禁止となりましたが
賛成 45 反対 7 (内4はスキーヤー) どちらともいえない 5
- 8 全ての入山者には環境保全税が課せられていることは知っていますか
知っている 18 知らなかった 39
- 9 環境保全税を課せられるようになったことについて
当然のこと 32 やむを得ない 21 支払いたくない 3 分からない 1



【スキー・ボード関係者のみ】 9 (内1 未回答)

- 何人のグループで来ましたか (2, 3, 4, 9, 15人)
- 滑降指定地域を知っていますか 良く知っている4 だいたい2 知らない2
- 融雪防止剤は使用していますか 使っている1 使っていない7
- 毎年訪れていますか 初めて2 ほぼ毎年5 ときどき1

【回答者からの意見】

- シャトルバスの案内が不足(乗り換え等) ・バスのエンジンも規制すべき
- 環境対策は国がやるべき ・環境保全税は正しく使ってほしい

調査レポート

マイカー規制が実施されて初めてのスカイライン、スキー・ボードの実態調査にとシャトルバスにて畳平へと向かう。自家用車と違い座席も高く視野も広々として山の斜面の針葉樹林内がよく見える。車中で時々乗鞍の案内テープが流れるが、絶妙な解説・ガイド付なら申し分ないとは、皆の心の中。視界が悪い時などに備えてビデオがあるといい。環境保全税でその辺のところも検討していただきたいものだ。

畳平に着くと先に着いた観光バスからあふれ出る観光客。やはり放し飼状態の自由行動のまま。国立公園特別保護地区でなければ受けられないといった自然観察案内のサービスはどう受けられるのか、環境保全税により自然観察案内人を設けて『自然観察案内人』と看板の出ている建物も設置されたがこの多数の観光客に対して自然観察へのお誘いと具現化をどれだけ、どのようにするのだろうか。当日配置されていた自然観察案内人・環境パトロール員は熱意が伝わるほど一生懸命職務をこなされていた。去年は駐車中にアイドリングをしているバスなどかなりあったが今年是一台もなかった。それもパトロール員・係員・案内人の職務の熱意からだろうか。ありがたいことである。

スキーヤー・ボーダーは昨年と比べてかなり少なく、ライチョウにとってはよい環境になってきているように思われる。駐車場でボーダーとパトロール員の話に入ってみると「スコップの持ち込みは禁止している」とパトロール員。ボーダーは「禁止ならシャトルバス乗り場で伝えてほしい」と言っていた。たしかにその通りだと思う。バス乗り場ではそのような案内もなかったし、注意・規制事項が書いてあるPR・パンフレットも設置・配布されなかったし、バス内のアナウンスでも流れなかった。自動車利用適正化協議会にて話が出ていないのではないかな。税として徴収するのならそうゆうところにも配慮がほしいものだ。でなければ協議会にて予算を組んでもらいたい。

滑っているボーダーを見るとパトロール員がいなくなるとせっせとジャンプ台を作り硫安を撒いていた。パトロール員によると注意はするが強制力がないし、第一ボーダーの多くが規制・注意

事項を知っていてもやるし、マナー・態度が悪く多くの問題を起こしているとのことだった。

スキーヤーが立ち去った雪原を見ているとライチョウが雪原の真ん中まで出てきて回りをうかがいながら暫くの間たずんでいた。スキーヤーのいたところは彼のなわばりだったのだろう。2箇所のスキー指定地での出来事だった。

1週間後、ライチョウ調査に登ったときにもシャトルバスから降りるボーダーの手には相変わらずスコップがあり、ジャンプ台を作っていたが昨年持ち込んでいたレイル(手すりのような滑り台)はなかった。また、帰りのバスでは案内放送もなかったが、運転手がライチョウや高山植物の事を教えてほしいと話しかけてきた。お客さんに聞かれたとき返事ができないからとの事。関係者の自然教育も必要なのではないかなと思う。

環境保全税について高山市に住んでいるのに知らないと答えられたのにはびっくりした。観光ルートに組み込まれて登ってきた人の多くが知らなかったと答えていたが、なかには車中でバスガイドから聞いたと答えてくれた人も僅かだ。ただ驚いたことにバスガイドのなかに知らなかったと答えた方もいた。全国初の『環境保全税導入』旅行業者等にもっと周知してもらいたいものだ。

以前から言われていることだが観光ツアーでやってくる人の多くが平地とは違う環境だとの意識が薄く、高いところの観光地くらいの認識でしかないのだろう、トイレのことについてもしかりである。バス車中でのガイド(案内)の必要性を感じる。トイレ協力金のことで「生理的欲求に便乗してはいけない。」との意見を言う方もいた。

ほうの木平駐車場に設けてある『ペット一時預かり所』では6月8日現在までに6件のペットを預かっていた。簡易施設なのでこれから登山者が多くなる時期にどのように対応するのか心配である。生き物を預かるということは大変なことなのだが・・・。色々な事が中途半端な状態でスタート

していて、一つ一つ解決していかなければならない。現状を理解しているお役人がいるのでしょうか。

(調査参加者)



■会員の声 （投稿欄）

乗 鞍 仙 人 に 思 う

小笠原 昌一 （高山市）

乗鞍岳への登山道が、何人かの乗鞍仙人たちによって開発されたことは、数々の実績から伺われる。まず、明治始めに蛇出道を開いた仏徳行者、ついで岩井谷沢上からの登山道を開いた木食行者がいる。時に木食はふもとの村に米などを乞いに来たらしいが、普段は名前の如く木の芽を食べていたらしい。彼は旗鉾を起点に沢上から山頂までに不動明王三十六童子の名を刻んだ 36 本の石道標を置こうとした人である。以前私はこの道標を追って、彼の開いた登山道の一部を歩き、4 本の石道標を確認している。その一つは東大宇宙線観測所の下方にあり、「無垢光童子」と刻んである。

又畳平から不動岩、五の池へ通じる分岐点辺りには「知恵童子」「〇〇童子十五丁」と刻まれた道標がある。この地より蛇出旧道へ下りること 200m の地点には「大光明童子」と刻まれた道標を確認している。村の古老によると、残りの道標は旧登山道（蛇出道）五合目辺りの岩陰に並べて立ててあるとの事である。

乗鞍山麓、岩井谷を詰めたところに平金鉱山があった。明治時代をピークに昭和初期まで金・銀・銅を産出していた鉱山であるが、ピーク時には沢山の人々が住み、郵便局・学校などが立ち並び大変な盛況振りであった。旗鉾地区で発行している『くらがね』によると、岩井谷沢上区の道下七右衛門が平金の山を歩いていて『光る石』を発見し、高山市江名子町の林久右衛門と共にそこに笹小屋を作り、鉱石をふいごで精錬していたという。明治 24 年頃のことであった。道下氏はその後、乗鞍岳 7 合目 2300 メートルの地点、鍋掛松付近に小屋を作り又大正 3 年 12 月 10 日には頂上の下に石小屋を作った。

道下仙人と同じ頃現れた仙人に『板殿仙人』がいる。彼は丹生川村板殿村の出身で、こよなく乗鞍岳を愛し、家族も省みず摩利支天岳の麓に小屋掛けして登山道の修復や遭難者の救助などを行っていた。彼は通称『イタショー』と呼ばれ、乗鞍神社のお札を売ったり、絵葉書を売ったりしており、いわば乗鞍観光の草分けとなった仙人である。

昭和 3 年 6 月高山測候所が乗鞍岳に観測所を設置し、同年 11 月旗鉾郵便局に電話が開通したのを期に、所員は徒歩で赤川新道を下って旗鉾郵便局へ行き、そこから電話で乗鞍観測所の記録を高山測候所へ通報した。終戦後高山市の森下博三は高山測候所に復職し、乗鞍岳観測所に勤務することとなった。その頃から飛騨山岳会の活動が復活した。

昭和 22 年夏に千町ヶ原経由で乗鞍山頂を目指す定例山行きが行われたとき、暴風雨に見舞われ体力に限界を感じた落後者が千町ヒュッテに荷物を置いて平湯へ下山することとなり、森下は何往復もして下山者の荷物を降ろした。彼のこの行動に対して山岳会のメンバー達が彼を『カモシカ仙人』と呼ぶようになった。

乗鞍岳を母なる山と敬い、情熱を注いだ仙人はまだ沢山いる。旗鉾村の住人で戦時中軍属としての乗鞍航空実験所に勤務され、後に高山営林署乗鞍岳看視所、及び乗鞍岳スカイライン管理事務所に勤められた小笠原徹雄氏（通称乗鞍村長）、朝日村青屋口乗鞍登山道に仏像 180 体を安置した上牧太郎之助氏、安曇村山小屋友幸会主で後の安曇村村会議長、村長を歴任された福島清喜氏、私の上司で初代乗鞍岳山頂郵便局長若田勘左衛門氏など、今は亡き大先輩を思う時、故郷の山乗鞍岳に注がれた情熱の篤さにただ、ただ頭が下がるのみである。

平成 3 年から行われた丹生川村史発刊事業に際し、民俗学者の角竹弘氏から木食の安置した三十六童子の石道標探しを依頼された。しかし石道標は先に述べたように僅か 4 本を発見したのみで村史民俗編の発刊には間に合わなかった。今後の私の人生を残された石道標を発見することに託したいと思っている。

乗鞍岳におもう

福井強志（岐阜市）

乗鞍岳へ最初に訪れたのは、青春まっただ中の20数年前の夏、長野県の乗鞍高原から自転車で登ったのが初めてでした。頂上まで登ったらガスで視界が無く、かなり疲れた状態で登ったので、あまりよい印象は残りませんでした。その後、県からの委託ライチョウ調査などで定期的に訪れるようになりました。調査をとおして、ライチョウの雄が見張り場の岩上で立っている姿や、ヒナを気にしながら餌をついばむ雌親、一生懸命にライチョウが生活している様子を見ることが出来ました。また、イワヒバリやカヤクグリは普通に見られ、高山帯の野鳥だけに、ガスのかかったハイマツや岩場でさえ姿は、何か孤独なものを感じさせます。ホシガラスもハイマツの実を食べにやってきました。イワツバメは駐車場の建物で巣を作っているの、近くを飛び回っています。残雪とハイマツの濃い緑、空の藍色、そしてお花畑で可憐に咲き誇る高山植物は、本当に素晴らしい風景で、雲上の楽園そのものです。その楽園の80年代はライチョウの親子が、鶴が池や豊平周辺でも歩いていましたが、最近姿が消えてしまいました。これから近い将来に、乗鞍そのものや、他の場所がそんな姿にならないようにしたいものです。

新聞記事より



乗鞍シャトルバス用に新しく導入された低公害バスー高山市昭和町、乗鞍バス高山営業所



乗鞍シャトルバスに低公害バス
乗鞍シャトルバス（高山市昭和町、乗鞍バス高山営業所）は、自然環境にやさしい低公害バスを導入し、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。

乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。

2003年6月25日付
岐阜新聞

乗鞍シャトルバスのマイカー規制を行う。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。

自動車適正化協議会が会合 バス利用増目指す

夏山シーズンを控え

早急に対応策

乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。乗鞍シャトルバスは、乗客の安全と環境保護に努めている。

2003年7月9日付
岐阜新聞

公開講座『自然談話室』

5月から始めた『自然談話室』、参加者から好評を博しています。屋外だと360度目移りしてしまうが屋内だとじっくり集中して聞けるからよいとの声も聞かれます。原則として毎月第2火曜日、高山市民文化会館にきてみませんか。新しい発見に出会うかもしれません。

8月12日 伊藤茂（岐阜県山岳連盟会長） 『乗鞍今昔』

9月9日 藤本健三（文化財保護協議会） 『乗鞍信仰』

昭和に入って(2)

昭和9年の高山線開通は、同年末の北アルプス国立公園指定とあいまって、一挙に登山客の増加と地元の活況をもたらした。飛騨山岳会の昭和11年の事務報告には、「本年に於ける夏山の登山者は、依然として増加の傾向を辿り、高山駅内登山案内所に於いて斡旋したる登山者数のみにても、四千五百余名に及び、全飛一円の登山口経由のものを合算すれば、^{いよいよおびただ}愈々夥しき実数に上るを予測するに難からず」とある。同時に遭難も増加して、同報告には「今冬来、シーズンに入りてより、頓にスキー客の殷賑を極めた乗鞍岳は、不幸にも遭難事件の発生相次ぎ、その都度これが捜査救助に慥からぬ努力を要したり」とあり、2月13日の項に、東京の会社員一行3名のスキー登高中遭難したのを救助した記事を書いている。この年の遭難救助費も250円の高額に達している。

3月23日には、名古屋鉄道局主催の乗鞍岳スキーツアー一行40名が、信州側から大尾根を経て飛騨側に下った記事があるが、山ではまだ厳冬期といってよい時期、寄せ集めのメンバーでの企画では、遭難の可能性はきわめて高かったといわざるをえない。

以後高山駅を経由する登山者の数は、昭和12年の日中戦争勃発の年に多少の減少があったものの、増加の一途を辿って、昭和14年から16年にかけて7,8千人の登山客が訪飛し、その半数位が乗鞍へ、残りが上高地・穂高方面へ向かったと想像される。これには高山線開通のほか、安房峠を経由する自動車道路が昭和13年に開通したことも預かって力があつたと思われる(『高山市史』による)。

昭和16年の太平洋戦争勃発後は、不要不急の登山などは人目をはばからねばならぬようになって、急激に山は寂れた。17年飛騨山岳会事業報告には「一億国民はただ挙げて戦力増強に一途邁進の外、物的方面にも、人的方面にも、全く余裕なき事態に立ち至り、従って計画事業の遂行意に任せず」とあり、また18年に飛騨スキー倶楽部と飛騨山岳会は、大日本体育会の下に合併するに際し声明を発した。文中に「体育団体にして、時局に副はざる向は、続々廃絶せられ居る折柄、山岳行軍、スキー錬成、共に武技として一層奨励せられ、本会の使命も益々重きを加えつつあります」とある。

(西村宏一)

《寄付》 小関祥子

ありがとうございました

新入会員紹介 (前号以降・敬称略) 平成15年7月末会員数 一般 194名 ・ 団体 5団体

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円

あなたの知人、友人に

・ 郵便振替 00800-8-129365

入会をおすすめください

・ 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第13号 (夏号) 平成15年7月20日発行

発行者 乗鞍岳の自然を考える会

〒506-0055

岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者 : 宝田 延彦 E-mail : nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編集者 : 住 寿美子 TEL 0577-34-7237 : 栗田 美由紀 TEL 0577-33-0179

表紙写真提供 : 小池 潜

イラスト : 山本 孝子

印刷 : ウィット企画